

地域が活性化する「緑住文化都市」推進プロジェクト

－ 愛知県幸田町 －



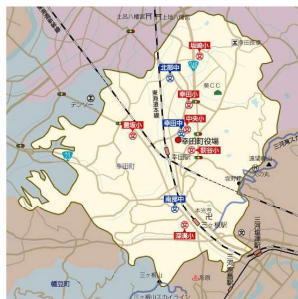
自治体SDGsモデル事業提案の背景（地域の課題）



地域の特性

愛知県の中南部に位置

- 名古屋市から45km圏内の愛知県の中南部に位置し、北に京ヶ峯、東南に遠望嶺山、南に三ヶ根山と、三方を山に囲まれた自然豊かな地域。
- 中央を南北にJR東海道本線が縦断している他、南北・東西には国道が走っており、交通アクセスに恵まれている。



自然と調和した、ものづくりの町

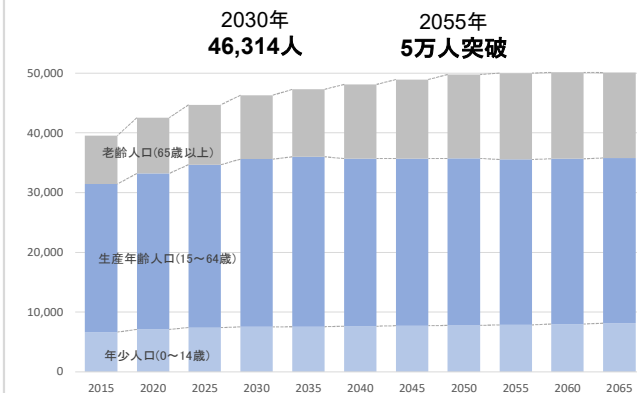
- 自動車関連産業を中心とした「ものづくりのまち」であり、町内に7か所の工業団地が立地するなど、自然と産業が調和したまちづくりを進めてきた。
- 2018年度の産業別生産額は、輸送用機械が7,918億円と圧倒的な割合を占める。

2018年 産業別生産額

輸送用機械	7,918
はん用・生産用・業務用機械	1,149
情報・通信機器	926
その他の製造業	437
電気機械	267
化学	191
住宅賃貸業	185
金属製品	177
電気業	142
保健衛生・社会事業	127

着実な人口の増加

- 本町は「人と自然と産業の調和」を基本理念として、緑豊かな自然、恵まれた交通アクセス、区画整理や工業団地の計画的整備により、着実に人口増加（令和5年10月時点：42,255人）を図ってきた。



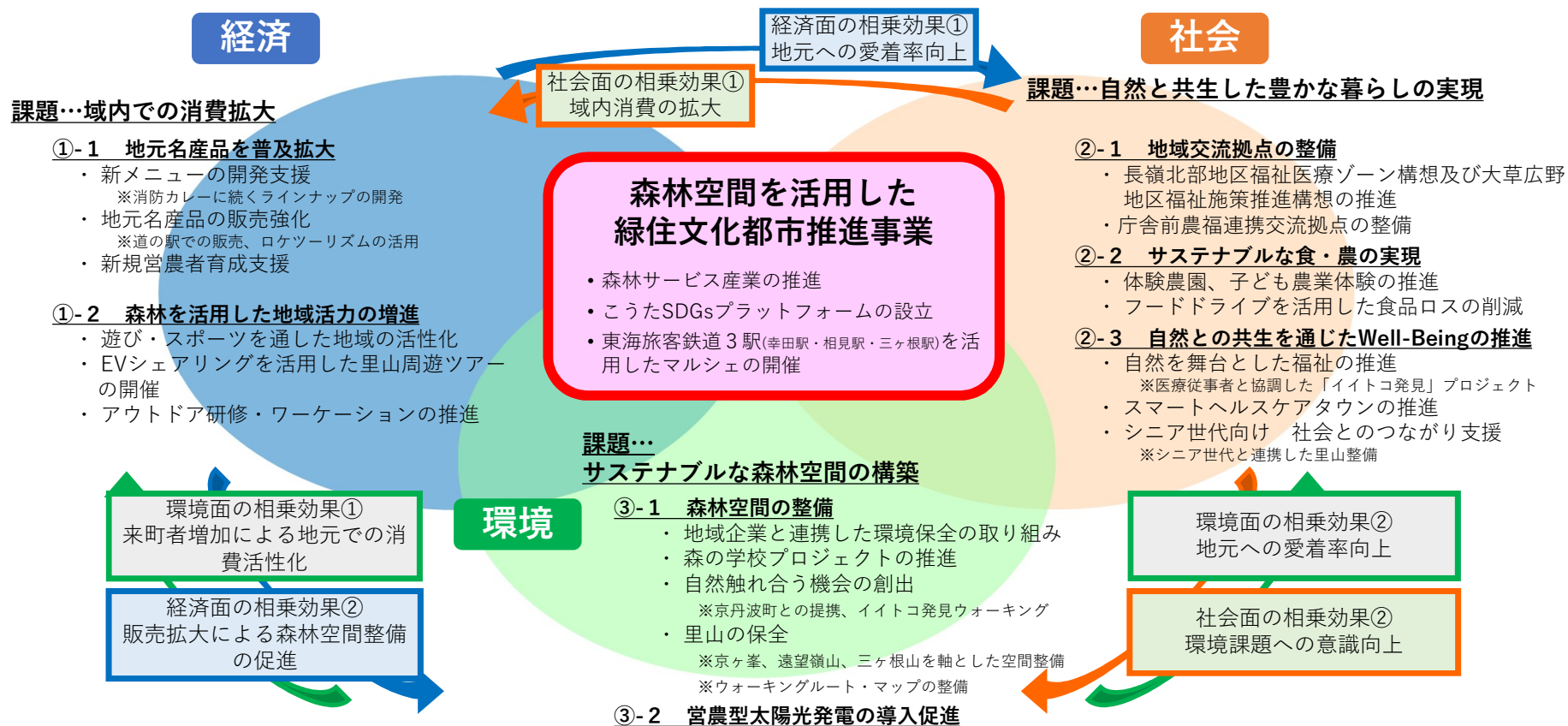
課題

着実な発展を遂げてきたものの、、、

- 人口増加の影響で、**地域のコミュニティの一体性やコミュニケーションが希薄化**
- 多くの町民が豊かな自然を町の魅力だと感じている一方、**里山等が活用されず、身近な自然との関りが薄い**

地域が活性化する「緑住文化都市」推進プロジェクト

地域の活力を高めることでまちの魅力を再確認し、市街地の周囲に広がる里山の保全と、自然との共生を通じたコミュニティのつながりを両立した「緑住文化都市」を実現することにより、まちの魅力や地域の活力を向上させ、持続的な成長を目指す。



自治体SDGsモデル事業の概要（経済面）



課題：域内での消費拡大

取組内容

①-1 地元名産品の普及拡大

- 新メニューの開発支援
- 地元名産品の販売強化
- 新規営農者育成支援



①-2 森林を活用した地域活力の増進

- 遊び・スポーツを通じた地域の活性化
- EVシェアリングを活用した里山周遊ツアーの開催
- アウトドア研修・ワーケーションの推進

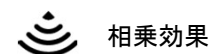


効果

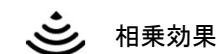
経済面

持続可能な域内経済を創出することで、町民所得の向上や農業人口の増加を図る

	現時点	2026年
卸売・小売業における町民所得額	9,481百万円	10,913百万円
新規就農者数	2人	5人



相乗効果



相乗効果

社会面

地元の魅力に触れる機会を増やし、町への愛着を高める

	現時点	2026年
町に住み続けたいと思う人の割合	58.1 %	65.0 %
地域での人間関係が良いと思う人の割合	15.3 %	20.0 %

環境面

自然との触れ合いを通して、環境への意識を高める

	現時点	2026年
自然環境の保全が重要と思う人の割合	59.3 %	65.0 %
温室効果ガス排出量	1,222 千t-CO2	702 千t-CO2

自治体SDGsモデル事業の概要（社会面）



課題：自然と共生した豊かな暮らしの実現

取組内容

②-1 地域交流 拠点の整備

- 長嶺北部地区福祉医療ゾーン構想及び大草広野地区福祉施策推進構想の推進
- 庁舎前農福連携交流拠点の整備



②-2 サステナ ブルな食・ 農の実現

- 体験農園、子ども農業体験の推進
- フードドライブを活用した食品ロスの削減



②-3 自然との共 生を通じた Well-Being の推進

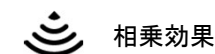
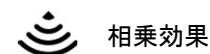
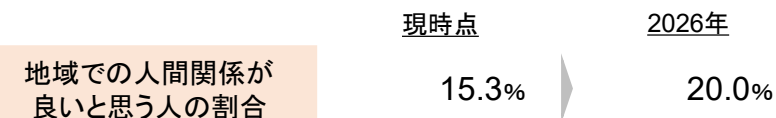
- 自然を舞台とした福祉の推進
- スマートヘルスケアタウンの推進
- シニア世代向け 社会とのつながり支援



効果

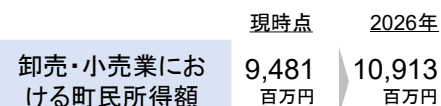
社会面

支え合いの精神の醸成、サステナブルな食・農の実現、町民の健康増進などにより、コミュニティの活力を向上させる



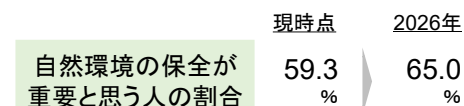
経済面

サステナブルな食・農の仕組みの実現により購買意欲を向上させる



環境面

自然環境を意識した地域社会との交流や体験を通して、環境への意識を高める



自治体SDGsモデル事業の概要（環境面）



課題：持続可能な森林空間の構築

取組内容

③-1 森林空間 の整備

- 地域企業と連携した環境保全の取組
- 森の学校プロジェクトの推進
- 自然触れ合う機会の創出
- 里山の保全



③-2 営農型太 陽光発電 の導入促 進

- プラットフォームを活用した導入促進

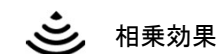
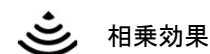


効果

環境面

自然と触れ合う機会の拡大により、環境に配慮する企業や町民を増加させる

	現時点	2026年
こうたSDGsプラットフォームの登録パートナー数	30団体	60団体
自然環境の保全が重要と思う人の割合	59.3%	65.0%



経済面

自然を生かした魅力的なコンテンツにより、地元経済を活性化

	現時点	2026年
卸売・小売業における町民所得額	9,481 百万円	10,913 百万円

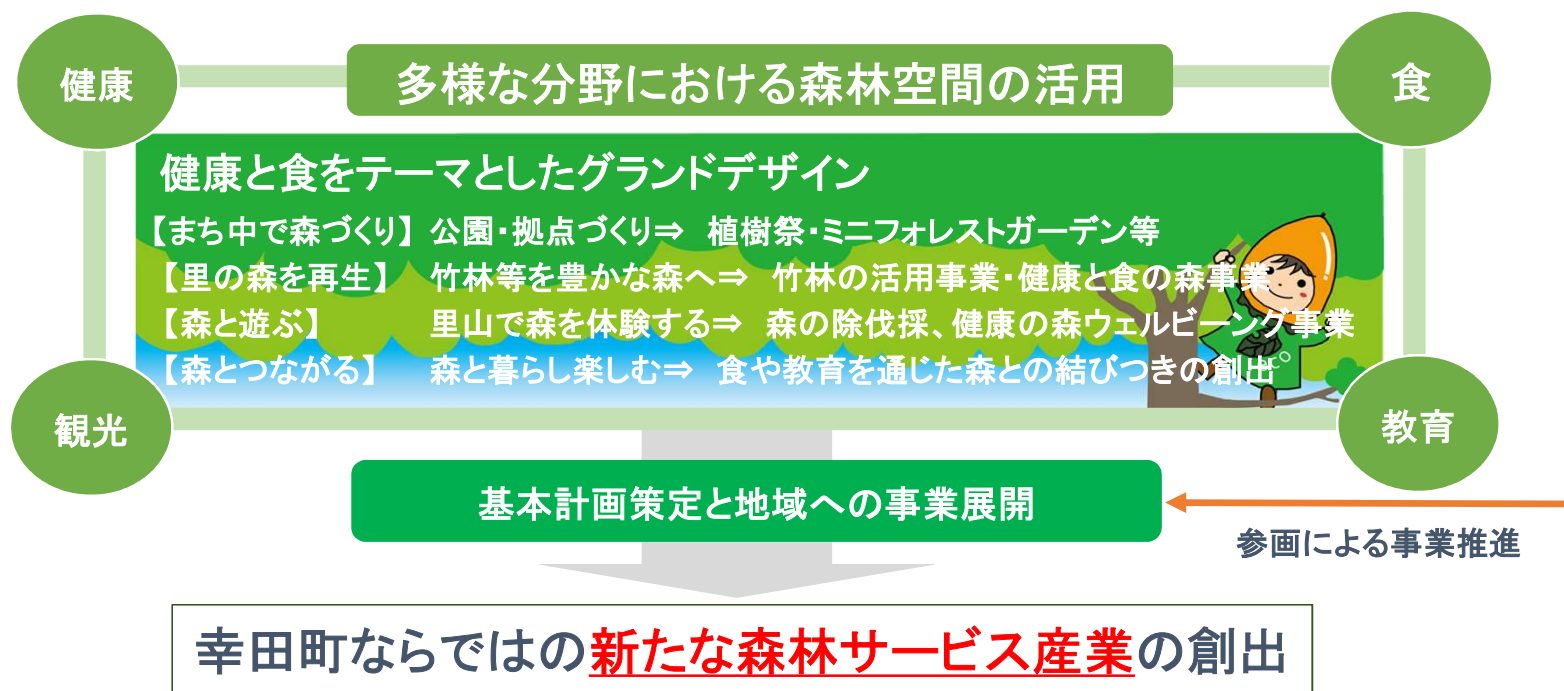
社会面

持続可能な森林空間の構築により、地域の連携を強化

	現時点	2026年
町に住み続けたいと思う人の割合	58.1 %	65.0 %
地域での人間関係が良いと思う人の割合	15.3 %	20.0 %

3側面をつなぐ統合的取組①（森林サービス産業の推進）

- これまで有効活用されてこなかった町域の約43%を占める豊かな森林空間を、健康、観光、教育等の多様な分野において活用することにより、幸田町ならではの「新たな森林サービス産業」を創出する。
- 森林サービス産業の推進により、森林環境の整備・保全、健康増進や関係人口の創出、地域経済の活性化を図る。



協議会の設立

地域活動団体、専門家、民間企業、行政等で構成される協議会を設立

人材の育成・確保

子ども、若者、子育て世代、シニア・シルバー世代といったあらゆるステージにおける人材を育成するとともに、町外からのボランティア等の人材を活用

- ・ 森林環境の整備・保全の推進
- ・ 健康増進や生きがい・働きがい創出によるウェルビーイングの実現
- ・ 町外のボランティア等の関係人口創出
- ・ 地域経済の活性化

3側面をつなぐ統合的取組②（こうたSDGsプラットフォームの設立）

- SDGsの達成のため、町民・事業者・行政などの各主体が協力して主体的・積極的に実践するための「場」を設け、情報を発信・共有する機会を創出し、多様な主体が活発に議論することにより取組を加速させていく。

こうたSDGsプラットフォーム － SDGsパートナー登録制度 －



① 情報発信

専用ホームページの開設による取組発信と情報共有を強化

② 取組の可視化

パートナー一覧の作成・公開による取組内容が見える化

③ 交流会の設定

定期的な交流会の開催によるパートナー間の関係構築

④ マッチング支援

パートナー間のマッチングにより、地域課題の解決策や新事業を創出

⑤ 町政への反映

パートナーとの情報や意見交換の場を設けることにより、町政参画への機運を醸成



アイデアを
行動に移す

アウトプット

- ・ 起業機会の創出
- ・ 新事業・サービスの創出
- ・ 新たなアイデアの実現



成果

アウトカム

- ・ 地域課題の解決
- ・ 地域経済やコミュニティの活性化
- ・ 住民サービスの向上



成果を多様な
主体と共有

3側面をつなぐ統合的取組③（東海旅客鉄道3駅を活用したマルシェの開催）

- 住民のライフスタイルの変化や高齢化が進む中、本町の森林空間へのアクセス窓口となるJR3駅を地域の交流拠点としながら、地域の魅力を再発見し、新たな魅力を創出することにより、地域への愛着をはぐくみ、地域コミュニティの活性化を図る。

【JR相見駅】⇒ 京ヶ峯



【JR幸田駅】⇒ 遠望嶺山



【JR三ヶ根駅】⇒ 三ヶ根山



JR東海道本線の区間内で、
駅が3つある町は、幸田町だけ

地域住民

来町者

各駅周辺で駅前マルシェを開催

幸田町商工会

幸田駅前発展会

地元飲食店

地元生産者

地域が主体となった運営

地域の若手を中心とした運営により、新たなアイデアを注入したイベントを企画

環境への取組の啓発

食品ロス削減など環境へ配慮した運営を行うとともに、町の環境施策の啓発・PRを推進

地域の活性化と地域交流の促進

- ・ 地域住民や来町者の交流の場・機会を創出
- ・ 地元の生産者支援と地産地消への意識向上
- ・ 地元特産品及び地元飲食店のPR

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

将来的な自走に向けた取組



モデル事業から全体計画へ効果を波及

